

製品名: eIF4G (リン酸化 Ser1148) ウサギポリクローナル抗体**カタログ番号: APRab04601**

研究使用のみ

概要

説明	ウサギポリクローナル抗体
宿主	うさぎ
応用	IHC, ICC/IF, ELISA
反応性	ヒト、マウス、ラット
標識	非共役
修飾	リン酸化
アイソタイプ	IgG
クローン性	ポリクローナル
形態	液体
濃度	1mg/ml
保存	アリコートし、-20°Cで保存してください（12ヶ月有効）。凍結/融解サイクルを避けてください。
輸送	氷袋
バッファー	50% グリセロール、0.5% 保護タンパク質、0.02% 新タイプ防腐剤 N を含む PBS 液。
精製	アフィニティー精製

応用

希釈倍率 IHC 1:100-1:300, ICC/IF 1:50-1:200, ELISA 1:20000-1:40000

分子量

抗原情報

遺伝子名	EIF4G1
別名	EIF4G1; EIF4F; EIF4G; EIF4GI; Eukaryotic translation initiation factor 4 gamma 1; eIF-4-gamma 1; eIF-4G 1; eIF-4G1; p220
遺伝子 ID	1981.0
SwissProt ID	Q04637
免疫原	抗血清は、Ser1108 のリン酸化部位周辺のヒト eIF4G 由来の合成ペプチドに対して作製された。 アミノ酸範囲: 1074-1123

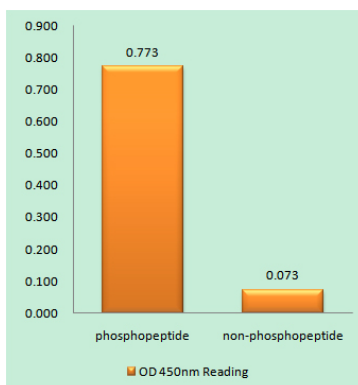
背景

この遺伝子によってコードされるタンパク質は、多サブユニットタンパク質複合体 EIF4F の構成要素です。この複合体は、タンパク質合成の開始段階における律速段階であるリボソームへの mRNA のリクルートメントを促進します。mRNA キャップの認識と ATP 依存性の 5'末端二次構造の巻き戻しは、この複合体の因子によって触媒されます。この遺伝子によってコードされるサブユニットは、EIF4F 複合体の他のメンバーが結合する部位を含む、大きな足場タンパク質です。N 末端のドメインはポリ A 結合タンパク質と相互作用し、翻訳中に mRNA の環状化を媒介する可能性があります。選択的スプライシングによって複数の転写産物バリエーションが生じ、その一部はプロモーターの選択的使用に由来します。[RefSeq 提供、2010 年 8 月]機能:タンパク質複合体 eIF4F の構成要素であり、mRNA キャップの認識、5'末端二次構造の ATP 依存性の巻き戻し、およびリボソームへの mRNA のリクルートメントに関与しています。、PTM:特定のエンテロウイルス、ライノウイルス、およびアフトウイルスによる感染後、EIF4G1 はウイルスプロテアーゼ 2A によって切断されますが、アフトウイルスの場合はリーダープロテアーゼによって切断されます。これにより、キャップされた細胞内 mRNA の転写が停止します。、PTM:生体内で複数の部位でリン酸化されます。、配列注意:異常なスプライシング。、類似性:eIF4G ファミリーに属します。、類似性:1 つの MI ドメインを含みます。、類似性:1 つの MIF4G ドメインを含みます。、類似性:1 つの W2 ドメインを含みます。、サブユニット:eIF4F は、その構成が外部および内部の環境条件によって変化する、複数のサブユニットからなる複合体です。少なくとも EIF4A、EIF4E、および EIF4G1/EIF4G3 で構成されています。eIF3 と相互作用し、EIF4A1 または EIFA2、EIF4E とは相互に排他的であり、N 末端を介して PAPBC1 と相互作用します。C 末端を介してセリン/スレオニンキナーゼ MKNK1 および MKNK2 と相互作用します。EIF4E をリン酸化するためにこれらの酵素を保持する足場タンパク質として作用すると考えられる。非リン酸化 EIF4EBP1 は EIF4G1/EIF4G3 と競合して EIF4E と相互作用する。インスリン刺激による MAP キナーゼ (MAPK1 および MAPK3) による EIF4EBP1 のリン酸化は複合体の解離を引き起こし、EIF4G1/EIF4G3 が結合して翻訳を開始する。EIF4G1/EIF4G3 は PABPC1 と相互作用して mRNA の環状化をもたらす。ラパマイシンは FKBP を介したインスリン刺激を弱める可能性がある。EIF4E3 と相互作用する。MIF4GD と相互作用する。ロタウイルス A の NSP3 と相互作用する。この相互作用において、NSP3 は PABPC1 の代わりになり、宿主のタンパク質合成を停止させる。

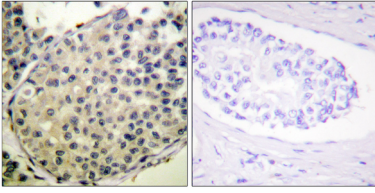
研究分野

ウイルス性心筋炎;

画像データ



eIF4G (リン酸化 Ser1108) 抗体を用いたリン酸化ペプチド (リン酸化左) および非リン酸化ペプチド (リン酸化右) 免疫原の酵素結合免疫吸着測定 (リン酸化 ELISA)



eIF4G (リン酸化 Ser1108) 抗体を用いたパラフィン包埋ヒト乳癌の免疫組織化学染色。
右の写真はリン酸化ペプチドでブロッキングした状態。